

単元名

ごみのしよりと利用（東京書籍）

本時1 / 12 時間

本時のねらい

育成を目指すプログラミング的思考

身の回りのごみを分別する活動を通して、ごみの処理の現状について理解することができる。（知・技）

抽象化



目的に応じて、物事の特徴や要点を抜き出す。 Stage2

本時のねらいとプログラミング的思考との関連性

本時の学習では、プログラミング的思考の中の抽象化の思考を取り入れ、ごみの分別状況を理解するために、様々な家庭ごみを仲間分けし、共通点を抜き出す活動に取り組む。普段の生活で出るごみについて、スライド上でイラストを移動してごみの分別の疑似体験を行うことによって、本時のねらいを効果的に達成できる。

学習ツール

Viscuit

Scratch

スライド

スプレッドシート

無

プログラミング的思考に関する活動の流れ
（展開を想定）

●教師の発問・指示

◇指導上の留意点

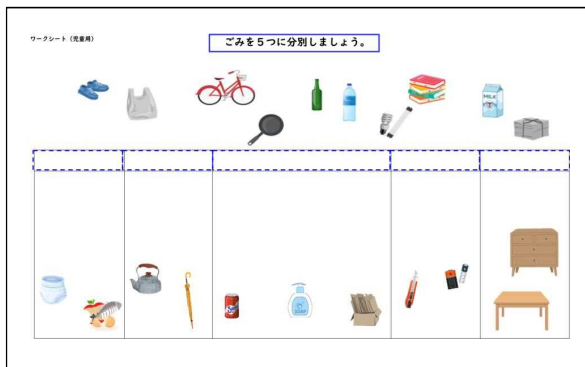
※学習ツールを使用する際の留意点

導入

1 課題を確認する。

家庭で出るごみを分別しましょう。

2 スライドを使って、ごみの分別をする。



※Google Classroom にリンクを貼る等、児童がスライドにアクセスできるようにしておく。

●「ごみの絵を分別しましょう。」

※イラストを移動する方法や、スライドに文字を書き込む方法を確認し、活動が円滑に進むようにする。

◇ごみのイラストを分別することで、ごみの種類ごとの共通点を見いだすことができるようにする。

◇スライドの中のごみの例を手掛かりにして、イラストのごみを分別するよう指示する。分別する順序は問わない。

※イラストに示した物以外のごみが思いついた場合は、自分で書き加えさせてもよい。

展開

3 分別したごみの種類に名前を付ける。

●「どんな種類のごみか、名前を付けましょう。」

◇ごみの種類ごとに名前を付ける活動を通して、共通点に気付くことができるようにする。

4 どのように分別したか、ごみの種類にどんな名前を付けたか、グループで話し合う。

◇より説得力のある分別表にするため、3～4人のグループで話し合わせる。

◇全体で考えを交流した後、基本的には、燃やせるごみ・燃やせないごみ・資源ごみ・危険なごみ・粗大ごみの5種類に分別できること、それ以上の細かな分別方法は自治体ごとに決められていることを説明する。

◇児童の実態に応じて、資源ごみを更に分別するとしたらどのように分別できそうか考えさせてもよい。

終末

【スライドの作業シート（児童用）】

ワークシート（児童用）

ごみを5つに分別しましょう。

【スライドの作業シート（解答例）】

ワークシート（児童用）

ごみを5つに分別しましょう。

もやせるごみ	もやせないごみ	しげん物	きけんごみ	そ大ごみ